

外務省の仕事や国際問題解説

明石西高、職員招き講演



高校生の質問に答える外務省職員の中川紘佑さん―明石市二見町西一見

明石西高校が7日、外務省職員を招いた講演を開いた。国際人間科の1、2年生約70人が、外交や国際問題について理解を深めた。

講師は加古川市出身で、外務省大臣官房儀典外国訪問室の中川紘佑さん(38)。マレーシアの総領事館に勤めていた中川さんは、現地でも楽器の演奏や英語の落語を披露したことを紹介し、「日本の文化を紹介することは、外交活動の大きな柱の一つ」と話した。

ナ侵攻に伴う物価高を例に挙げ、外交が生活に直結しており、資源の輸入を一つの国だけに頼ることは問題があると解説した。

講演後には、有志の生徒が残って中川さんに質問。外務省入庁のための進路を問われると「海外に興味を持ち、自国についても知ることが大事で、特定の学部でないことだめということはない」などと答えた。

外交の仕事に興味があるという1年生の渡辺仁美さんは「語学力が絶対だと思っていたが、部活や勉強、趣味も大事だと知って驚いた。まずは空手部の活動から改めて頑張りたい」と話した。

(有富晴貴)